

八中2年人権だより

徳島市 八万中学校
2年生 第3号
2023年6月5日
編集・文 吉成正士

(2号からのつづき)

5「ひいばあと給食」3組:YK

— あらすじ —

残る給食について。ひいばあがくれる、畑で育てた野菜は大好き。その収穫の手伝いをして思ったことは、作ってほしいけど、高齢者には厳しいという現実。だからこそ、残したくない。給食も同じで、食べ物を残さないように変わった。食品ロスの問題も、身近なことから変えていけると思った。



祖母の家での体験を通して

■今日の人権集会での発表、先生の話には、「他人事」という言葉が多く使われていたように感じました。今までの集会でも「他人事」という言葉は少なくありませんでしたが、特に今回の人権集会では、すごく聞こえてきたように思います。他人事だと思ふから、差別やいじめはなくなるんだろうし、クラスでも問題が起きてしまうんだと、あらためて感じさせられました。そんななかで、他人事だと思っていたけれど、身近にある大きな問題という言葉聞いて、考え方や態度をもう一度見直してみなければいけないということを知りました。私も一度どこか他人事として見ていないか考える必要があるなと思いました。

YKさんの食べ物の話を聞いて、命をいただいているありがたさを感じました。私は自肅期間の時に、祖母の家に滞在していて、畑や料理のお手伝いや、山に行つたけのこを掘ったりしていました。採れたたけのこや野菜を実際に家族で食べたとき、「おいしい」と言ってもらえて、自分たちが頑張って採ったものをおいしく食べてもらったときのうれしさを知りました。そういった経験があったら、命を粗末にする行為は減るのではないかと思います。これからも料理を作ってくれた人、食べ物を作ってくれた人に感謝を忘れないように過ごしたいと思います。

(2組FW)

不思議なものです。自分が釣ってきた魚や収穫した野菜、手塩にかけて育てた食材は、何となく「少し重

い」ような気がします。どこか美味しさが違うような気がします。けどそれは、今まで食べてきたものと、そんなに変わりはないはずです。なのにそう感じるということは、気の持ち様で味まで変わるということなのでしょう。もしそうであるなら、産地の情景、生産者の表情、食材の気持ちを、常に想像してみることです。もちろん、体験に勝るものではありません。体験して初めて分かることがありますから。でも、体験できないことだってあります。そんなときは、人間に与えられた能力である、「想像力」を生かすことです。人やモノの声に耳を澄ますことです。「想像」してみることです。その習慣が身につけば、私たちの行動は、自然と変わっていくはずです。

小さいことから世の中を変えることに協力

■私は人権作文発表会で、自分たちがまだ知らないような発表と、自分の知識がまだ足りていないと思う発表がありました。最初の発表の部落差別について、私は差別はみんなで協力してなくしていかなければならないと強く感じました。でも、感じるだけではどうにもなりません。私たちが思ったこと、感じたことを行動に移さなければならぬと考えました。しかし、気づかないうちに差別してしまうかもしれない。だけど、人が意識することで、きっと世の中は変わると思いました。

次の発表であった給食の食べ残しについて、毎日食べている朝食、給食、夕食の食材の中には、いろんな人の思いが込められているのだとあらためて気づくことができました。確かに、人には食べられる限界があります。でも、嫌いだからといって食べ物を残すのは、食材を作ってくれた人、生き物たちに申し訳ないと思います。だから私は、給食、朝食、夕食をできるだけ食べたいと思います。今回の作文発表で、思ったまま、考えたまま終わるのではなく、それを行動に移すのが大切だと思いました。私も小さいことから行動に移して、世の中を変えることに少しでも協力をしたいです。

(6組TM)

だから、「語り合い」ませんか。語り合いながら、知らないことを知っていき、足りてないことを補い合っていくのです。そうして学びを深め、広げていくのです。気づかないうちに差別をしてしまうこともあるかもしれませんが。そんなときのために、「何でも話せる仲間」が必要となります。もしそんな存在がいれば、自分がおかしい道に進んだとき、本当の仲間なら声をかけてくれるはずです。

差別をなくし、世の中を変えていく大切な4つの要素は、知ること(知性)、感じること(感性)、行動すること、そして仲間の存在です。あなたは、この4つの大切な要素を、ちゃんと理解できています。あとは、実行あるのみです。

食べ物を粗末にすることは、命を粗末にすること

■僕は人権作文発表会に参加して、勉強になることがたくさんありました。YKさんが発表してくれた食べ物のことで、食品ロスは少しずつでもなくしていかなければならないと思いました。世界には食べ物を食べることができなくて苦しんでいる人がいるにもかかわらず、食べ物を残している人がいます。吉成先生は、食べ物を残すことは、命を粗末にしているとおっしゃっていました。僕も同じことを思っています。だから、食べ物を残すのは絶対にしてはいけないとあらためて思いました。

KMさんが発表してくれた戦争のことについては、戦争は絶対にしてはいけないと感じさせられたものでした。今、ロシアとウクライナで戦争をしていて、尊い命がたくさん奪われています。日本も昔、戦争をしていたので、自分にも深く関係していると思います。戦争をしてもいいことは全くないし、たくさんの人たちが死んでしまいます。戦争についてたくさん知るためにも、これからは自分から戦争について勉強していきたいです。

最後に、僕たちの学年は感じが悪いことが分かりました。僕の周りにも、セミナーの学習時間などにうるさくしている人がいて、勉強に集中できないときがあります。他の人も迷惑に思っていると思います。さらに、クラスLINEというものをしている人がいて、先生から注意されているのを見たことがあります。人を傷つけるような書き込みをしてしまうかもしれないからです。これらのように、僕の周りにはたくさんの人権の問題があると気づきました。自分たちの学年の雰囲気をよくするためにも、これらの問題と向き合いながら人権学習に取り組んでいきたいです。

(3組HE)

中学生の皆さんと人権学習していると、「え！そんなことが分かってなかったんだ」と気づかされることがあります。分からないことは人によって違うのですが、そのことに気づくたびに、「どうしてそんなことが分からないの」という気持ちを抑えて、「どうすればうまく伝わるんだろう」と考え込みます。深く深く考え込んで、どう言えば分かるだろうか、こう言えば分かるだろうかと、作戦を練ります。

人権と聞くと、どこかすごいことのように思えて、立派なことを言ったり考えたりしないといけないように思っている人がいます。大人でもいます。でも、そうじゃないんです。身近な人のことを知ること。身近な私たちの生活を見つめること。私自身を見つめなおすこと。そして、そこにある課題を、人権の視点で解決していくことが、本当に大切な人権学習なのです。だから、残飯や給食だけでなく、清掃について考えることも人権学習です。学級や学年の課題について考えることも人権学習です。SDGsや経済、環境問題について考えることも、人権学習なのです。

6「人の心を忘れずに」2組:YY

— あらすじ —

SNSは便利だが、安全ではない。悪口を書き込むことで、嫌な思いをする人がいる。誹謗中傷で亡くなった人もいます。それをなくすために、相手の心を読むこと、嫌な書き込みには反応しないこと。言葉は人の心を癒すが、鋭い刃物にもなる。そのことを忘れず安全な場所にしていきたい。



投稿は一生残り続ける

■僕は人権作文発表会を通して、SNSの使い方を気をつけようと思った。SNSは身近にあり、世界中のいろいろなことは二度と消すことはできないということを知り、投稿したことは一生残り続けるという自覚を持たないといけないと思う。そのために、投稿するときは内容を一度読み返し、だれか嫌がる人がいるのなら、投稿するのをやめる、これが大事だと思う。一人一人がこのことを心がけることで、少しずつインターネットでの誹謗中傷は良い方向へ進んでいくのではないかなと思った。僕もこれからのことを心がけ、毎日の生活を送ろうと思った。

また、給食の残飯を捨てるということは、命を粗末にすることだ、という吉成先生の話聞いて、確かにそうだなと思った。食べ物にも命があり、残すということは命を粗末にすることだということを知り、その人のできる範囲でご飯を食べることが、SDGsにもつながってくると思った。僕も無理はせず、自分のできる範囲で、給食に限らず、ご飯をつくってくださった人や、食べ物に感謝しながら食べていこうと思った。また、これらのことを「誰かがやるだろう」と他人任せにせず、自分から進んで取り組んでいこうと思った。

(2組ME)

これまでは身の周りの多くのことを、「誰か」がやってくれてた人も多いのではないのでしょうか。私が皆さんくらいの頃は、家族がほとんどすべてのことをやってくれたように思います。その「当たり前」に甘えて、楽をしていました。嫌いなものは避けたり、ごまかしたりしていました。すると、どうなるか。気がつけば、自分では何もできない大人になってしまいました。これは大ピンチです！何も知らない、何もできないでは、一人で暮らしていけません！親はたぶん、言ってきたのでしょ。あれしなさい、これしなさいと。でも、それを聞き入れなかった私は、本当に大バカ者でした。

やれてなかった私が言うのはおかしいのですが、「誰かがやってくれる」ことを当たり前せず、自分からやってみてください。もちろん一人ではできないこともあるでしょう。それは誰かに頼って構いません。できないことを支え合いながら生きていくことは当然のことですから。でも、自分にできそうなことは他人任せにせず、できるようになっていくことです。それは、いつか必ず、皆さんのためになります。それが、一人前になるということです。一人前になったうえで、「共に生きる」のです。

(4号につづく)